

2014年4月、ブーズ・アンド・カンパニーはグローバルにPwCネットワークの傘下に入り、ブランド名をStrategy&と変更した。日本においても、旧ブーズ・アンド・カンパニーは引き続き、独立した法人として存続し、PwCの日本における各法人との連携を行いながら、実践的な戦略策定を行うグローバルなチームとして、クライアントを支援していく。

そして、このブランド変更を機に、旧ブーズ・アンド・カンパニー東京オフィスが発行してきた経営情報誌Management Journalも誌面を刷新し、Strategy& Foresightとして生まれ変わる運びとなった。記念すべき第1号は「デジタル化とイノベーションの未来」を特集テーマに取り上げている。

本号で紹介する論考の1本目は「グローバル・イノベーション1000 投資と革新」である。第9回目を迎えたグローバル・イノベーション調査は、全世界のR&D支出の大きい1000社を対象にした調査で毎年実施している。今回の調査では、日本がR&D支出について中国、米国に水をあけられている実態が明らかになった。また最も革新的な企業10社のランキングにも順位に変動があり、興味深い結果となっている。

2本目の論考「デジタルツールが企業を変える」では、グローバル・イノベーション調査の結果からデジタルツールの利用実態について

分析している。デジタルツール利用の全体像を見ると、デジタルツールはもはや一部の先進企業のみが活用しているのではないことがわかる。デジタルツールがイノベーションの加速の原動力になっているなか、R&Dとデジタルツール利用の在り方を自社のイノベーションの進展度合いと合わせて検証する必要があるだろう。

3本目の論考「イノベーションにおける選別プロセスの重要性」は、どのように有望なアイデアに投資を集中させていくか、そのためにはそれ以外のアイデアをどのように「間引いていくべきか」、そのプロセスと考え方を提示している。イノベーションに関する書籍や論文は数多く、アイデアをどう生み出すかについてはさまざまな取り組みがなされているにも関わらず、イノベーションを起こすことができないのはなぜか。その大きな原因は、アイデアの枯渇ではなく、有望なアイデアを見極め、適切な投資を行っていないからである。

4本目の論考「3Dプリンターの未来」は、新技術が自社の事業や戦略にどのような影響を与えるのか論じたものである。これから誕生する新技術はパラダイムシフトを起こす可能性を持ちうるのか。流行の3Dプリンターを事例としつつ、新技術の将来予測に広く活用できる手法を紹介している。